

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅢ (4単位)	3. 科目番号	SSMP3157
2. 授業担当教員	熊谷 大輔		SCMP3357
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	ソーシャルワークⅠ及びソーシャルワークⅡの単位を修得した後に履修することが望ましい		
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅢは、ソーシャルワークⅠ・ソーシャルワークⅡで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理、ソーシャルワークプロセスと付随する専門技術等を前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、多様な課題と支援の必要性を持つ現代社会のクライアントに、より専門的に対応、その課題等の解消と軽減に向け働きかけることのできる知識・技術としての実践理論・アプローチについて学習する。加えて、グループを用いた支援、あらゆる場面で必要とされるコーディネーションとネットワーキング、関連する社会資源の調整と開発など、クライアントへの直接的・間接的相談援助技術について総合的・包括的に学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>		
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの定義と「相談援助」の対象について再確認する。 2. ケースマネジメント（ケアマネジメント）についてその概要を理解する 3. グループを活用した支援について理解する。 4. コーディネーションとネットワーキング、社会資源の調整・開発について理解する。 5. ソーシャルワーク実践モデルとアプローチの概要と実践方法について理解する。 6. スーパービジョンについて理解する。 7. ケースカンファレンスについて理解する。 8. 実践事例を通じて、相談援助に必要な専門知識・技術について横断的に活用ができる。 		
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	<p>講義回数前半期（14回目）及び後半期（28回目）にそれぞれ1回ずつ（計2回）レポートを課す。レポートの題目及び執筆規定については授業の中で指示する。主体的な学習によって理解を確実なものとし問題解決力を養うように努めること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅱ（新・社会福祉士養成講座8）』第3版、中央法規、2015年。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 ・8つの目標を達成することができたか。</p> <p>○評定の方法 （1）平常点（授業態度・発表・発言・学習課題など）20%、 （2）課題レポート 30% （3）試験 50%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアント・システムとして捉え、対象がどのような場合であっても、基本的なソーシャルワーク過程の応用であることを意識しながら実践力を身に付けて欲しい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遅刻、欠席の無いようにすること。やむを得ず欠席する場合は書面で教員に届け出ること。 2. レポートの提出期限を遵守すること。提出期限後の提出は減点の対象となる。 3. 私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業を妨げる行為を禁止する。違反者は受講態度で減点の対象となる。 		
13. オフィスアワー	初回講義時に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション（説明と理解） ーソーシャルワークの基礎的理解の確認	事前学習	ソーシャルワークの基礎内容について予習する。
		事後学習	学習目標と学習内容を理解する。
第2回	相談援助における対象の理解（1） ー社会福祉援助活動の概念と定義	事前学習	教科書 pp. 2～4 を読む。
		事後学習	ソーシャルワークの定義を理解する。
第3回	相談援助における対象の理解（2） ー援助対象者の捉え方	事前学習	システム理論について予習する。
		事後学習	システム理論と活用方法を理解する。
第4回	相談援助における対象の理解（3） ー新しい専門的視点の必要性和活用方法	事前学習	教科書 pp. 5～17 を読む。
		事後学習	新しい専門的視点の必要性を理解する。
第5回	ケースマネジメント（1） ーケースマネジメントの意義	事前学習	教科書 p. 22～38 を読む。
		事後学習	ケースマネジメントの意義をノートにまとめる。
第6回	ケースマネジメント（2） ーケースマネジメントの特徴	事前学習	教科書 pp. 39～52 を読む。
		事後学習	ケースマネジメントの特徴をノートにまとめる。
第7回	グループを活用した相談援助（1） ーグループワークの意義	事前学習	教科書 pp. 54～58 を読む。
		事後学習	グループ・ダイナミクスについて理解を深める。
第8回	グループを活用した相談援助（2） ーグループワークの援助過程	事前学習	教科書 pp. 59～73 を読む。
		事後学習	グループワークの展開過程について理解する。

第9回	グループを活用した相談援助(3) —グループワークの事例	事前学習	グループワークの実践について調べる。
		事後学習	グループワークの展開過程について整理する。
第10回	グループを活用した相談援助(4) —グループワークの事例	事前学習	自助グループについて調べる。
		事後学習	グループワークの展開過程について整理する。
第11回	コーディネーションとネットワーク(1) —コーディネーションの意義	事前学習	教科書 pp. 76~85 を読む。
		事後学習	コーディネーションについて理解を深める。
第12回	コーディネーションとネットワーク(2) —ネットワークの意義	事前学習	教科書 pp. 86~97 を読む。
		事後学習	ネットワークについて理解を深める。
第13回	コーディネーションとネットワーク(3) —ネットワークの事例	事前学習	地域包括支援センターについて調べる。
		事後学習	事例について振り返る。
第14回	コーディネーションとネットワーク(4) —ネットワークの事例	事前学習	地域での見守り活動について調べる。
		事後学習	事例について振り返る。
第15回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発(1) —意義・目的・方法	事前学習	教科書 pp. 76~85 を読む。
		事後学習	社会資源の種類と特徴を整理する。
第16回	これまでの振り返りと中間試験の実施	事前学習	第2回~第15回までの重要な項目を整理する。
		事後学習	中間試験の内容について振り返る。
第17回	実践モデルとアプローチ(1) —意義と各種のモデル	事前学習	教科書 pp. 122~141 を読む。
		事後学習	各種モデルの違いを整理する。
第18回	実践モデルとアプローチ(2) —心理社会的アプローチ・機能的アプローチ	事前学習	教科書 pp. 122~141 を読む。
		事後学習	心理社会的・機能的アプローチについて整理する。
第19回	実践モデルとアプローチ(3) —問題解決アプローチ・課題中心アプローチ	事前学習	教科書 pp. 150~155 を読む。
		事後学習	問題解決・課題中心アプローチについて整理する。
第20回	実践モデルとアプローチ(4) —危機介入アプローチ	事前学習	教科書 pp. 156~158 を読む。
		事後学習	危機介入アプローチについて整理する。
第21回	実践モデルとアプローチ(5) —行動変容アプローチ	事前学習	教科書 pp. 159~161 を読む。
		事後学習	行動変容アプローチについて整理する。
第22回	実践モデルとアプローチ(6) —エンパワメントアプローチ	事前学習	教科書 pp. 164~167 を読む。
		事後学習	エンパワメントアプローチについて整理する。
第23回	実践モデルとアプローチ(7) —ナラティブアプローチ	事前学習	教科書 pp. 168~171 を読む。
		事後学習	ナラティブアプローチについて整理する。
第24回	実践モデルとアプローチ(8) —その他の実践アプローチ	事前学習	教科書 pp. 172~181 を読む。
		事後学習	実践アプローチについて整理する。
第25回	スーパービジョンとコンサルテーション(1) —技術と内容	事前学習	教科書 pp. 184~190 を読む。
		事後学習	スーパービジョンの意義・目的を整理する。
第26回	スーパービジョンとコンサルテーション(2) —実践に向けた活用技術	事前学習	教科書 pp. 190~204 を読む。
		事後学習	コンサルテーションの意義と目的を整理する。
第27回	ケースカンファレンスの技術と実際 —視点と活用方法	事前学習	教科書 pp. 206~229 を読む。
		事後学習	事例研究の目的と意義について整理する。
第28回	自己情報の保護と情報通信の活用	事前学習	教科書 pp. 232~255 を読む。
		事後学習	個人情報保護法について整理する。
第29回	事例研究の目的と意義	事前学習	教科書 pp. 258~281 を読む。
		事後学習	事例研究の目的と意義について理解を深める。
第30回	これまでの振り返りと中間試験の実施	事前学習	第17回から第29回までの重要な項目を整理する。
		事後学習	中間試験内容を振り返る。